

令和5年4月

大野市教育委員会定例会  
会議録

日 時：令和5年4月26日（水）午後3時30分～午後4時52分

場 所：大野市役所 大会議室



## 大野市教育委員会 4 月定例会 次第

令和 5 年 4 月 2 6 日（水）午後 3 時 3 0 分～  
大野市役所 大会議室

### 1 開会

会議録署名人 馬道委員 松谷委員

### 2 3 月定例会の会議録の承認について

### 3 教育長重要事項報告

### 4 議事

議案第 3 4 号 専決事項の報告について（令和 4 年度 3 月補正予算の専決）

議案第 3 5 号 専決事項の報告について（令和 5 年度 4 月補正予算の専決）

議案第 3 6 号 大野市部活動地域移行推進事業補助金交付要綱案について

議案第 3 7 号 大野市学校運営協議会の設置について

議案第 3 8 号 大野市結の故郷伝承文化認証審査会委員の選任について

議案第 3 9 号 大野市文化財保存活用地域計画推進協議会委員の選任について

### 5 付議事項

1) 大野市通学区域審議会への諮問について

資料 1

2) 5 月行事予定について

資料 2

### 6 その他

1) 大野ですくすく子育て応援パッケージについて

資料 3

2) 3 月の業務報告について

資料 4

3) 令和 5 年度教育委員会人事異動について

資料 5

4) その他

### 7 閉会

<出席者>

	教育長	久保俊岳
	委員（教育長職務代理者）	馬道保
	委員	松谷由美
	委員	松田輝治
	委員	羽生たまき
事務局（説明者）	事務局長	横田晃弘
	教育総務課長	指岡哲郎
	こども支援課長	山崎勝彦
	生涯学習・文化財保護課長	佐々木伸治
（書記）	教育総務課課長補佐	森永奈緒子

<傍聴者>

なし

## 【開会】

【教育長】 ただいまから大野市教育委員会 4 月定例会を開会する。

## 【教育理念唱和】

## 【会議録署名人】

【教育長】 本日の会議録署名人は、馬道委員、松谷委員にお願いする。

## 【3 月定例教育委員会会議録の承認について】

【教育長】 事前にお送りした会議録案について、ご意見、ご質問等があればお願いする。

——<意見・質問なし>——

【教育長】 3 月定例会議録については事務局からの提案どおり承認してよろしいか。

——<異議なし>——

【教育長】 事務局の提案どおり承認する。

## 【教育長重要事項報告】

【教育長】 本日は、第 3 3 回東海北陸都市教育長協議会研究大会について報告し、本年度の本市教育行政の方向性について確認したい。

先般、4 月 2 0、2 1 日の 2 日間にわたり、富山県射水市において先ほどの研究大会が開催された。約 1 0 0 人の教育長が集まる全体会で 2 市が事例研究発表を行うこととなっており、三重県熊野市とともに大野市も発表の機会を得た。

本市は、テーマを「0 歳から始まる生涯教育」とし、サブテーマを「機構改革による子育てと教育の統合」とした。国は本年度よりこども家庭庁を発足させ、子ども政策の充実に向けて動き出した。本市は、第 6 次総合計画の改訂に伴い、2 年前から子育て分野を教育委員会の所管としている。0 歳から 1 8 年をつなぐ教育、さらには人生 1 0 0 年時代を見据えた生涯学習までを教育委員会の所管とする体制を整えている。この 2 年間にきてきた成果と課題について報告した。

主な内容を 3 例挙げる。まず、「大野ですくすく子育て応援パッケージ」である。妊娠期、乳児期、幼児期、学童期、若者・保護者とライフステージに応じて必要な支援を行っている。本年度は 4 年目に入り、医療的ケア児への支援拡充等のきめ細かなサポートの段階に入っている。また、当初は市長部局の福祉こども課の事業であったが 2 年前に教育委員会の所管としたことから、全ステージを通じた対応が大変円滑に行われている点が第 1 の大きな成果である。

次に長期休業中の居場所「学びと遊びと体験の広場」である。教育委員会

3課とスポーツ推進課がワンチームで取り組むことで実現したのも大きな成果である。放課後子ども教室と放課後児童クラブの国の所管は異なったままであるが、本市では一体的に進めることを実現した。これも子育て分野を教育委員会が所管する体制にしたことにより出てきた発想である。さらに、部局を横断してスポーツ推進課と連携できたのも大きな成果である。

成果の3点目は学校再編に伴う総合的な教育環境の整備である。現在、中学校と小学校の再編に向けて準備が進んでいる。それに合わせて、ハード面の未来志向の学び舎づくりやソフト面の主体的な授業への改革、18年をつなぐ教育、また地域との連携面でのコミュニティスクールの強化や部活動の地域移行、さらに生涯学習推進計画や文化財保存活用地域計画の推進など、点から線へそして面へと本市の総合的な教育環境の整備が進められている。

こども家庭庁が動き出すとともに、子育て政策を重点課題に挙げる自治体が多い中、いち早く機構改革を断行し着実に成果を上げている本市の取り組みは多くの自治体から注目を浴びた。「地方自治体における地域課題の解決は待ったなしである。国の動きを待ってはい間に合わない。改革は地方から！」との石山市長の日頃の言葉を質疑応答の中で紹介すると、多くの教育長が頷いていた光景が大変印象的であった。

冒頭に触れた発表テーマのとおり、学校教育を含めた子育て環境と人生100年を見据えた生涯学習環境の充実を着実に進め、教育委員会の立場から持続可能な大野市のまちづくりに貢献したい。

## 【議事】

【教育長】議案第34号 専決事項（令和4年度3月補正予算の専決）の報告について、事務局の説明をお願いします。

——<教育委員会事務局長説明>——

【教育長】議案第34号についてご意見、ご質問等があればお願いします。

——<意見・質問なし>——

【教育長】議案第34号について、事務局の提案どおり承認してよろしいか。

——<異議なし>——

【教育長】議案第34号については、提案どおり承認する。

議案第35号 専決事項（令和5年度4月補正予算の専決）の報告について、事務局の説明をお願いします。

——<教育委員会事務局長説明>——

【教育長】議案第35号についてご意見、ご質問等があればお願いします。

——<意見・質問なし>——

【教育長】議案第35号について、事務局の提案どおり承認してよろしいか。

——<異議なし>——

【教育長】議案第35号については、提案どおり承認する。

議案第36号 大野市部活動地域移行推進事業補助金交付要綱案について、事務局の説明をお願いします。

——<教育総務課長説明>——

【教育長】議案第36号についてご意見、ご質問等があればお願いします。

——<意見・質問なし>——

【教育長】議案第36号について、事務局の提案どおり承認してよろしいか。

——<異議なし>——

【教育長】議案第36号については、提案どおり承認する。

議案第37号 大野市学校運営協議会の設置について、事務局の説明をお願いします。

——<教育総務課長説明>——

【教育長】議案第37号についてご意見、ご質問等があればお願いします。

——<意見・質問なし>——

【教育長】議案第37号について、事務局の提案どおり承認してよろしいか。

——<異議なし>——

【教育長】議案第37号については、提案どおり承認する。

議案第38号 大野市結の故郷伝承文化認証審査会委員の選任について、事務局の説明をお願いします。

——<生涯学習・文化財保護課長説明>——

【教育長】議案第38号についてご意見、ご質問等があればお願いします。

——<意見・質問なし>——

【教育長】議案第38号について、事務局の提案どおり承認してよろしいか。

——<異議なし>——

【教育長】議案第38号については、提案どおり承認する。

議案第39号 大野市文化財保存活用地域計画推進協議会委員の選任について、事務局の説明をお願いします。

——<生涯学習・文化財保護課長説明>——

【教育長】議案第39号についてご意見、ご質問等があればお願いします。

——<意見・質問なし>——

【教育長】議案第39号について、事務局の提案どおり承認してよろしいか。

——<異議なし>——

【教育長】議案第39号については、提案どおり承認する。

#### 【付議事項】

【教育長】大野市通学区域審議会への諮問について、事務局の説明をお願いします。

——<学校教育審議監説明>——

【学校教育審議監】3月の定例会において、有終西小学校PTAから、有終西小学校を卒業する児童の通学する中学校の通学区域についてのアンケートをお配りしている。まず、実際に通学している生徒の人数についてのご質問があったので、資料で示した。現在、6年生は33名で、開成中校区が12名、陽明中校区が21名となっている。この12名が上段の表の開成中＋上庄中の令和6年度の1年生に含まれており、21名が陽明中＋尚徳中＋和泉中に含まれている。各学年の半数に近い人数で2つに分かれている。このようなことも踏まえ、有終西小学校を卒業する児童の進学する通学区域について、通学区域審議会へ諮問をし、検討していただくということについてご意見を伺いたい。

【松田委員】過去に通学区域を分けるのに一番最善の形を選ばれたと思うが、その現状が今はかわってきているのかなという気はする。果たして開成中学校

へ行くことが決まったとすると、人数だけではなく時間的な距離とか交通の安全とかいろいろな要素が出てくると思われるので、若干心配される方もいるのではないかと思う。教育委員会として慎重に意見交換をしていけないといけない。私自身は人数バランスを考えると全員開成中にしてもよいと思うが、他にどんな問題があるのか分からないので、学校の現場のことなどご指導いただけたらと思う。

【教育長】有終西小学校のPTAとしては何らかの形では検討してほしいというご意向である。

【羽生委員】アンケートを見せていただいたが、本当によくとりまとめられているなどと思う。どんな考えがあって、どういう思いをもっているかということを広く共有できたことは非常に大きいと思う。アンケートをちょっと細かく見せていただいて、私なりに3つ注目したご意見があった。1つはやっぱり保護者というより子どもの思いを最優先したいということ、それから、中学校が2校に再編されるがこれからの可能性も踏まえると、大きなスパンで捉えていかなければいけないということ、それと校区割ではなく選択制ということ希望されている方がいらっしゃる。そこでお聞きしたいが、選択制という可能性についてお聞きしたい。

【教育長】いろんな観点から考えなければいけないことだと思うので、この5人で検討するのは非常に難しいと思う。完全に選択制にするのか、それともある大枠を決めて一部の選択ができるというようなことにするのか、時間的なことや距離的なことについても十分検討する必要があるだろうと思う。

そういった意味で、審議会を複数回開いて、課題をきちんと整理をしていく必要がある。そしてまた、今、大野市の教育環境を総合的に整備をしていこうと学校再編を核にして動いているので、一つの大きなポイントなのではないかと思っている。

【松谷委員】私も教育長のおっしゃる思いと一緒に、大体大まかな形を作って選択制を少し含んでいくというやり方で、まず進んでいくのが一番いいのかなと思う。

強制的な圧をかけるような方法だとちょっと難しいかなと思うし、かといってあまり意見を聞きすぎて、時間だけが過ぎるとまたそれはそれで大変なことになると思う。子どもたちの中では、もう1年というのがある間という間に過ぎていく。ある程度の枠を決めて、迅速に決めていくのがいいのかなと思う。

【馬道委員】アンケートでは、大多数が検討して欲しいという要望が出ていたので、その人数はやっぱり尊重してあげないといけないかなと思う。

私が学校現場で勤務していた時に、小さい小学校から中学校へ入学した子たちのクラスを分けるときにすごく配慮しなければいけなかった。あんまりバラバラすぎると、初めてのところでゼロからスタートというのがかわいそうだから、何人か一緒にしてあげようとか、そういう配慮が必要だった。そういうことを考えると、あまり子どもたちに負担がかからないようにしてあげたいという思いはある。

その他にデメリットもあるかもしれないし、それを審議会をよく話し合っていたら、できるだけ子どもたちの要望に沿った結果が出るといいかなと思う。



【教育長】整理をさせていただくと、今回は一言ずつお話をいただいたわけだが、大野市通学区審議会に、今のような意見も含めて審議をお願いするという方向にするか、それともそういう方式をとらない、検討しないということになるか。検討するとしてもこの5人で今結論を出せるかどうかという問題があるので、いかがか。前回の学校再編についても非常に大きい問題だったので、あのような形で検討していただいて、その検討結果をこちらとしては受けさせていただいた。そのため、先ほど申し上げたようにこの学校再編というタイミングを捉えて、総合的な検討をしていこう、整備をしていこうということになると、あまりここで判断を遅らせてしまうというのは好ましくない。検討を早めて、早く結論を出すことは必要である。もう中学校の再編は迫っているので、性急にという意味ではなくて、スピード感をもって、ということである。正式な結論というのは、5月の定例会で決定ということになる。もし諮問するというのであれば、今日はその諮問をするかしないかという方向性を確認したい。

【松田委員】諮問は、こちらの考え方というのはある程度示して、諮問していただくのがいいと思う。私たち個人だけで話していても、正直、学校のことについては専門家でもないので、最終的に子どもたちが良い方向になるようにしていきたい。それと、今回有終西小学校だけ出てきているが、有終東小学校でも同じような問題が出てくるのではないかと思う。その辺りを本当に細かく話して柔軟性を持った結論を導いてもらえることも大事じゃないかと思う。

【教育長】ただいまお話に出た有終東小学校の件でも、線路を渡って通っているというような状況もある。これも50年前に決まった校区割りではあるので、先ほどお話があったようにスパンを広げて考えていく必要があるかと思う。というのは、今5年間かけてここにきた。ベースを作ってきた基本的な5年間である。そしてこれからは実際に動いていく5年間である。この10年間に、今後の教育環境をしっかりと整備していくということである。そうすると、小学校の再編は令和8年度なので、やはりそこでも検討していく必要があるだろうと思っている。

ただ、この有終西小学校から上がってきた件は、早急に対応する必要があるだろう。有終東小学校の方はまた未就学の子どもになるわけで、若い保護者さんの声をこちらから聞く必要がある。そういうことも含めて検討することで、今回はこの有終西小学校の件について、集中的に検討していきたい。とにかくこの5人で何かの結論を出すのは非常に難しい。審議会をきちんと立ち上げていただいて、審議をお願いするという方向性についてはそれでよろしいか。

【4委員】異議なし。

【教育長】では、その方向性について確認をさせていただいた。先ほど申し上げたように、次の5月定例会で諮問文も含めて、正式に諮問することを議事として挙げさせていただきたいと思う。そこで、次の5月定例会に諮問をしなければいけないが、もし、その方向性であればということで、事務局で諮問文のたたき台を準備をしてもらっている。それは、今日のご意見を反映させたものではないので、一度見ていただいて、それに今日のご意見などを付け加えた諮問案を5月の定例会に検討するという段取りを組ませていただきました。

い。素案を見ていただいでよろしいか。

それでは、今申し上げましたように、5割、6割の案として、事務局から説明をさせていただきたい。

【学校教育審議監】では今お配りしたのは、先ほどお話があったように、たたき台の素案という言葉を使っているが、どうかよろしくお願ひしたい。

今回の審議会で審議をしていただくのはあくまでも中学校の校区で、開成中学校と陽明中学校の校区をどうするか、通学区域をどうするかということだが、今、問題になっている有終西小学校を卒業する児童に限定をし、審議を集中的に行っていたとこのう諮問内容になっている。

大野市の18年をつなぐ教育の中で、やはり校種間の連携ということが非常に重要で、有終西小学校を卒業する子が二つの中学校に分かれている現状であるということは、各方面、保護者であったり、現場の教員であったり、いろんところから憂いの声が聞こえたりもしているところである。それで、まず一つは18年教育ということで、小中をしっかりとつなぐという部分も含めて、大野市の教育環境を総合的に考えたときに、通学区域はどうあるべきなのかということ、有終西小学校について今回、通学区域審議会で審議をしていただきたい。

そして、その結論を実現するためには具体的にどうすべきだということろまで踏み込んで、審議会で審議をしていただきたいという内容である。

【教育長】下から4行ぐらいのところ、総合的かつ持続可能な関係であったり、その観点も含めながら、保護者アンケートや子どもたちの思いも勘案してということになる。

私とすると、こうしてアンケートをいただいたが、あくまでも9月時点の始めにとったアンケートであるので、12月に保護者の皆さんが共有されて、改めてどういうふう感じられているのかということも、再編検討委員会と同じように意見交換会を直にしたいと思う。そしてまた、子どもたちがどう感じているのかということもしっかり把握していきたいと思う。

また、選択肢の余地を残すなど、どういう形がいいのかといううような観点からも、ぜひしっかりと審議をお願いしたいと思っている。

この諮問書については、あくまでも素案であるが、これに関連して何か改めて思いがあればお聞きしたい。

【松田委員】このアンケートの中でも、今の子どもたちは学校を選ぶという選択肢についていろんところから情報が入ってきて、例えば私の聞いている部分で言ううと、今年小学校を卒業した子が近所に2人いるが、2人とも地元の中学校には行かなくて、金沢の中学校、福井市の中学校へ入学した。親の意見もあるのかもしれないが、子どもが自分でそういう選択をするというのがすごいなと思っている。これからもいろんな選択をする中で、子どもが行きたいと思う学校へ行かせてあげられたらいいなと思う。そういう柔軟性を考えられると良いと思う。

これは別に質問とかではないが、他にもそういう選択をされた方が何人かいらっしやるのか。

【学校教育審議監】ここ近年で私の周りでわかっていること言ううと、今の中学2年生になった子で、何人か市外の学校を選んだケースはあった。さらに前にさかのぼると、県外の中学校へ進学していったという例もあった。もちろ

ん数は多くないが、特に福井市の私立や県立の中学校を選ぶというのは、毎年ゼロではない。

【松田委員】何が言いたかったかという、今の子はすごいなということである。いろんな情報があって自分で選ぶことができるのではないかと思う。大人が縛り付けるのではなくて、ある程度ルールというのが欲しいと思うがバツサリ切ってしまうと子どもの気持ちが切れてしまうこともあると思うので、その辺もよく加味して、進む道をつくってあげられたらいいかなと思う。

【教育長】それでは、今のお話のとおり、なかなか結論は出しにくいと思う。いろんな角度から検討できたらと思うので、一度これを手元に置いていただいて、ご覧いただきたいと思う。

では、5月定例会に諮問文を含めて正式に決定をさせていただきたい。そしてその時に、審議会をどのような形で導入していくのかということもご相談をさせていただく。スピード感を持って慎重に丁寧に進めたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

【教育長】付議事項1)については、以上とする。

付議事項2) 5月行事予定について、事務局の説明をお願いする。

——<各課長説明>——

【教育長】ご意見、ご質問などがあればお願いする。

——<意見・質問なし>——

【教育長】付議事項2)については、以上とする。

## 【その他】

【教育長】その他1) 大野ですくすく子育て応援パッケージについて、事務局の説明をお願いする。

——<こども支援課長説明>——

【教育長】ご意見、ご質問などがあればお願いする。

【羽生委員】新年度版を見させていただいて、これまでの課題がいかに周知して普及活用していくかということであると、細分化したQRコードが非常に便利だと思う。市報は全戸配布されていると思うが、近隣の様子を見てみると自分の家も含めてだが、市報というのがおじいちゃん、おばあちゃん世代でストップしていて、若い方たちにシェアされていないケースを聞く。この間もこれ知っていると聞いたんですけど、存在すら知らないという人もいた。広報が届いた時には、こういうものが入っているので若い方にも見せてということで、何とか集落の人には私も周知していきたい。

全戸配布の他に周知として、こういったパンフレットが見やすいような市役所内とか、どこかに置いてあるか。

【こども支援課長】今おっしゃるとおり、スマホでQRコードをかざすと詳しい情報が見られるというものである。今のご質問だが、当然保育所、それから子育て支援センター、児童館のお子様を預かるような施設にも配置をさせていただいた。それと若者向けの情報ツールということであると、ラインを活用して、新しいパッケージができたということは近くお知らせさせていただきたい。

【羽生委員】まずは知っていただくことから、一市民としても広く周知に努めた

い。

【松谷委員】大野市のラインを登録しているので、今日などはおおの割りとか入ってきたが、この子育てすくすくパッケージのホームページに直接入れるようなQRコードというのは別にあるわけではないのか。どこか検索しやすいとか、アイコンを押すとすぐに出るようになっていたりとか、分かりやすくなっているのか。

【こども支援課長】今のところ、そこまでは至っていないので、今おっしゃられたことも考えていきたい。

【松谷委員】かなりそのことは大事だなと思っている。何回か押しているうちに出てきたけど、次どうやっていいか忘れてしまうこともあるので、見やすくなっているといいと思う。

【教育長】その他1)については、以上とする。

その他2) 3月の業務報告について、説明は省略するが、ご意見、ご質問等があればお願いします。

——<意見・質問なし>——

【教育長】その他2)については、以上とする。

その他3) 令和5年度教育委員会人事異動について、事務局の説明をお願いします。

——<教育総務課長説明>——

【教育長】ご意見、ご質問等があればお願いします。

——<意見・質問なし>——

【教育長】その他3)については、以上とする。

その他4) その他で、事務局から何かあるか。また、委員からも何かあればご発言いただきたい。

——<意見・質問なし>——

## 【閉会】

【教育長】これをもって、大野市教育委員会4月定例会を閉会する。

午後4時52分終了

令和5年5月24日

---

(馬道委員)

---

(松谷委員)